

研究課題名「骨盤内臓全摘術後の骨盤死腔炎のリスク因子から考える対策法」に関する情報公開

1. 研究の対象

2006年6月から2019年7月までに骨盤悪性腫瘍に対しPEを施行した133例です。

2. 研究目的・方法・研究期間

骨盤内臓全摘術(pelvic excenteration: PE)の術後合併症率は依然として高いです。中でも、骨盤死腔炎は対処が遅れると容易に敗血症性ショックに陥り、また長期予後を損なうとする報告もあります。一方、PE後の筋皮弁による会陰再建は、血流の良い組織を骨盤死腔へ充填することで死腔炎の予防に有用であると報告されていますが、全例にルーチンに行うには時間と手間が問題となり、筋皮弁再建を行うべき高リスク群を明らかにすることが必要であると考えます。

研究期間は実施承認日から2022年4月30日とします。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：術前検査、既往歴、手術記録、術後経過、術後合併症の発生状況、カルテ番号 等
試料：なし

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学

住所：名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

電話番号：052-741-2222

研究責任者：名古屋大学医学部附属病院消化器外科 1 上原圭